

# 岐阜県人移住100周年

## 県人会創立75周年も記念

### 高原副知事ら42人の慶祝団が出席

「言葉の問題や生活習慣の相違などを苦難の歴史を刻んだ100周年」。岐阜県人ブラジル移住100周年、ブラジル岐阜県人会(山田彦次会長)創立75周年記念式典が、25日午前9時からサンパウロ(聖)市リベルダーデ区の広島県人会館で開催された。式典には母県から高原副知事、渡辺真(しん)県議会議長をはじめとする慶祝訪問団42人が来伯して出席。当日は県人関係者など約300人が一堂に会し、1世紀の節目の年を祝った。

岐阜県人のブラジル移住は、1913年3月30日に神戸港発の「若狭丸」に乗船した11家族44人に始まり、戦前戦後を合わせた移住家族数は629

家族2142人上り、現在の子孫は推定で約1万人を超えているとい

う。当日は午前9時から、式典を前に仏教連合会(松室慈暎会長)による先

亡者追悼法要が執り行われ、各人が焼香した。導師を務めた松室会長は法要について、「多くの宗派の

県人が亡くなったが、その善いを説明し、称賛した。午前10時から行われた記念式典には、母県から高原副知事、渡辺県議会議長、渡辺信行中南米親善岐阜県議会議長、

細江茂光岐阜市長、松尾浩平岐阜県警察本部警視、杉山幹夫岐阜新進会会長をはじめ、亡くした方への追悼として、高松優弘在ブラジル日本国大使館公使、園田昭恵県連会長、安部順二連邦下議院議長として出席し、それぞれ祝辞を述べた。

らの人たちのために仏教各宗派のお経をあけてもらうことで、普段は忘れがちな生き人々へのご恩に報いたきと、県人会から依頼があった。同日は県人関係者など約300人が一堂に会し、1世紀の節目の年を祝った。

てあいさつに立った山田会長は、岐阜県人ブラジル移住の歴史を振り返り、「このようなおめでたい日を迎えたわけですが、戦

前戦後を通じて言葉の問題や生活習慣の相違など苦難の歴史を刻んだ100周年でもあります」と強調。国土の広いブラジルで岐阜県人とその子弟が各地に散らばっている中、同会長が中心になり

20年以上にわたって日本語での会報を送り続け、情報と話題を提供してきたことにも触れた上で、式典開催に当たり会員及び関係者への感謝の意を表した。

引き続き、祝辞を披露



ケーキカットを行う山田会長(右から2番目)たち



引き続き、祝辞を披露した高原副知事は38年に発足した県人会と岐阜県人移住100周年について触れ、移民の不屈の開拓者精神で困難を乗り越え、今日の発展に貢献したことを褒めた。また、さらに、県人会が岐阜県からの農業高校生や警察の語学研修の受け入れなどを行ってきたことに感謝し、さらなる活躍を期待した。

各来賓のあいさつに続き、在外移住岐阜県人表彰として高原副知事から、歴代会長の娘に当たる安田正子氏(82、2世)に賞状が、また北峯子、長

屋充良、伊藤バウロ勉、長屋瀧雄、高木和博の5氏にそれぞれ感謝状が贈られた。表彰者を代表して安田氏が謝辞を述べた後、岐阜新聞会長の杉山氏から山田会長に(財)国際調和クラブからの寄付金目録が手渡された。さらに、松尾警視から語学研修事業の感謝状が山田会長に贈られた。その後、岐阜県人会から渡辺中南米親善岐阜県議会議長、杉山会長

ソフラー歌手の山田香織さんに感謝状と記念品が贈呈された。県費留学生OBの大野

祝 75周年記念式典 岐阜県人ブラジル移住100周年

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典

祝 75周年記念式典 多国籍100周年記念式典